

「Color Atlas of Anatomy」 —A Photographic Study of the Human Body—

エルランゲン-ニュールンベルグ大学教授 J. W. Rohen 著
神奈川歯科大学教授 横 地 千 仩

福岡大学教授
山 田 英 智

本書は Erlangen 大学の Rohen 解剖主任教授と神奈川歯科大学解剖学教室の横地千仩教授の共著になるもので、そのサブタイトルに人体の photographic study とあるように、人体の解剖過程を示す多数の実物カラー写真を駆使して、人体の構造を図によって説明することを試みたものである。

医学における人体解剖学の教育ないし勉学のための図譜としては、古くから多くの優れたものが出版され、Sobotta, Toldt, Spalteholz など私共の学生時代によく使われたものが現在でもなお生命を保って利用されている。そのような現状の中で、本書が企画された理由と目的は、この本の序文に著者らが述べていることに明らかで、本書の特色もまたそれに尽きているといえる。

すなわち著者らは、まず従来の図

譜の多くは、模式図か、画かれた写生図を使用しており、立体感に乏しく、また実際の人体（この場合は解剖体）の感じが表されていないことを指摘し、その点カラー写真の方が真実味があり、解剖実習の際に直接対応させやすいと述べている。第2にこの図譜では、実際の解剖実習の手順に沿うように、局所解剖的に、また表層から順次深層に及ぶという、いわゆる層位学的配慮で図が作られている。言い換えれば、学生諸君が解剖実習での解剖の過程で1つ1つ直接参照しやすいように作られている。そのうえ、実物写真の理解を助けるために、筋、血管、神経の走行や分布を示す簡略な模式図が随所に付されているし、場合によれば遺体の血管や神経に直接色づけして写真としたり、必要に応じてはX線像、angiography または走査電顕像

などを加えるなどの工夫もなされている。これらはすべて人体構造を知るうえに大きな助けとなることは間違いない。著者らはまた、このような実物写真で人体構造を示説することにより、実習用遺体の不足を補うことができるし、直接人体について実習を行うことができない人々に実際の構造を知ってもらう手助けになると期待している。

上述の目標のために 600 枚以上のカラー写真が使用されているが、そのために、多くの遺体についての注意深く丹念な解剖と、目的に応じた剖出とがなされており、その苦心と労力とは大なるものがあつたと想像される。カラー写真はいずれも極めて鮮明であり、著者らが意図したことが十分満たされていると思われる。慾を言えば、各図に実物に対する大体の倍率を付しておく配慮があれば、実物の大きさを判断する助けになったと考えられる。

いずれにしろ、人体解剖学実習の際の伴侶としてユニークな図譜の誕生とすることができる。

A 4 判変型 444頁 図34 写真94
原色図615 色図137 1983年
¥ 14,000 円 600

医学書院 刊